

探訪 チャレンジ企業 82

編みレース技術で防草・植栽シートを開発
(製品名：ネガ・トール)

寺井レース有限公司：川北町

海外からの安価品の流入や国内消費の低迷など厳しい環境下にある繊維業界において、創業以来培ってきた編みレースの技術を生かし、新たな市場開拓を進めているのが今回ご紹介する川北町の寺井レース有限公司です。

一 創業以来培ってきた編みレース技術

「長年の技術開発で培った『編む』技術力は、どの業者にも負けませんよ」と力強く語ってくれたのは、当社代表取締役の井波秀俊さんです。

当社は昭和三十八年の創業以来、レース生地、加工糸、たて編工業用資材などの繊維製品を製造してきました。

なかでもレースを編み立てする機械で当社独自の製品を開発することが得意で、「他社での不可能を可能にする！」を理念に掲げ、これまでセーター、刺繍などに利用される加工糸の一種ラッセルモール(毛の生えた糸)や浄化槽のろ過ネット、漁網などに利用されるたて編み生地などを開発し、高い技術力で同業他社との差別化を図ってきました。



井波秀俊代表取締役

二 防草・植栽シートの開発

海外製品との価格差が拡大していくなか、井波社長は、従来品だけでは今後生き残れないとの思いから、これまでと全く違う分野への進出を常々考えていました。

そんな中、今から三年前、福井県の農機具・農業資材販売会社が、「ヒメイワダレソウ」(用水のノリ面やあぜ道の保護・緑

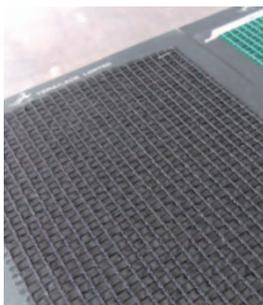
化に広く利用されている植物)の植栽シートの開発先を探しているとの情報を得たことがきっかけとなり、「防草・植栽シート」の開発に着手しました。

従来の防草シートは雑草の繁殖を抑えられても、上から植物の根を通さないため、植栽には適していませんでした。

当社のシートは、幅七ミリのテープ状のポリエチレンを糸で編み込んでつなぐ独自の技術で開発しました。その結果、遮光性、透水性、柔軟性に優れ、下から雑草を生やさない防草機能と上からヒメイワダレソウなどの景観植物を植えれば根付きやすいといった植栽機能の両立を実現することができました。

三 販路開拓に向けて

井波社長は今回開発した「防草・植栽シート」を、資材分野の主力製品にしたいとの思いから、「いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業(活性化ファンド)」への申請を決定しました。昨年三月頃から準備に入り、川北町商工会や石川県商工会連



防草・植栽シート「ネガ・トール」



当社シートにヒメイワダレソウの苗を植えた写真
写真左：施工直後(今年7月中旬頃)
写真右：施工約3カ月後(今年10月上旬頃)

合会の職員らの支援のもと、事業計画書を作成のうえ申請した結果、昨年九月、石川県産業創出支援機構の採択を受けることができました。

その後さらに、経済産業省の「地域産業資源活用事業」への認定申請にもチャレンジしました。中小企業基盤整備機構北陸本部にて計画のブラッシュアップを重ね、活性化ファンドと同様に商工会等の関係者の支援のもと事業計画書を作成・申請した結果、今年二月に認定を受けることができました。

これらの採択・認定により、製品を広くPRするためのホームページを作成するほか、建設資材や緑化に関する展示会に出展するなど、盛土ノリ面保護や用水路ノリ面保護工事を施工し

ている県内外の建設土木工事会社等をターゲットに、本格的な販路開拓に取り組んでいます。今年に入って、建設業者など十数社の試験施工に採用され、利用者からは「丈夫で破れず、雑草が生えてこない」「ヒメイワダレソウが短期間で生え広がる」と好評を得ています。

四 地球緑化事業への展開

地球温暖化対策や環境に配慮する取り組みが急速に広がっている中、緑化事業は世界的にも注目されており、井波社長は今後、土に還る「生分解素材」を使用したシートへの改良などを進め、当社の強みである編みレースの技術を活かした新たな地球緑化事業に繋げていきたいと考えています。

(お問い合わせ先)

寺井レース有限公司

〒九三三〇二二七二

能美郡川北町字田子島い三二

TEL〇七六一二七七一一五一

FAX〇七六一二七七一一三一五

ホームページ www.shirai-race.com

(取材・執筆) 県連合会

前川 伸朗

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。